

園名 三郷町立西部保育園

はばたくなら⑤

遊びを通して“考える力”を育む

5歳児 9月

取組について

○本園では、今年度の重点目標を『心と体を動かし、いきいきと主体的に遊ぶ子どもを育てる』としている。「いきいきと主体的に遊ぶ」ためには、遊びの中で一人一人がどのように遊ぶのか、どのように工夫するのか等考える力をもつことが大切である。また、友達の意見を受け止めながら、考えて遊ぶことのおもしろさを感じさせたい。そこで、子どもが自ら心と体を動かして遊びたくなる環境づくりと援助の工夫に、日々の保育の振り返りを行いながら取り組み始めた。

○5歳児クラスでは、9月の運動会でのリレー競技の実施に向けてコロナ禍の状況を踏まえ、バトンの受け渡しではなく、一人一人のしっぽを取ってリレーを実施する方法を考えた。クラスの年間計画では「ねずみの嫁入り」の劇遊びを2月に予定しており、劇遊びにつなげようと運動会では「ねずみのしっぽとリレー」をしようと考えた。「しっぽとり」を子どもが楽しんでいた姿もあり、子どもはなわとびを「ねずみのしっぽ」に見立ててすぐにリレー遊びを始めた。

○クラスでは日々、子どもの情報共有や保育の振り返りは行っていたが、「保育わくワークシート」の活用をきっかけに他クラスの保育者にシートを見てもらいながら意見を出し合うことに取り組んだ。

実践事例

子どもの姿

保育者の援助・言葉かけ

保育者の思い

<子どもの姿>

・集団の中で自信をもって発言しにくかったり、友達の意見を聞きにくく自分の思いを押し通そうとしたりする。

<ねらい>

・ねずみのしっぽのイメージをもち、自分で考え、意見を発表したり、友達の意見を聞こうとしたりする。

<環境構成>

・ホワイトボード
・マーカー

子どもはなわとびを使って「しっぽとリレー」を楽しんでいたが、全チームが同じ色のなわとびを使うことから他チームの子どもはなわとびを取り違えて中断してしまうことが起きた。間違えて混乱することへの不安から参加しづらくなる子どももいた。

走り終わったら同じチームの次の人のしっぽを取ろう！ 次の人はしっぽを取られたら走り出そう！

「リレーのしっぽはどうする？」と問いかける。イメージしやすくするためホワイトボードにしっぽとリレーの絵を描く。

A児「なわとびでいいんじゃない！」
B児「みんな違う色になるようになわとびの色を変えたら？」
C児「自分のチームの色をつけたら？」

個人のしっぽを作って混乱せずにリレーを楽しめるといいな。

「自分のをわかりやすくするってこと？」

D児「ひもを使う」 A児「なわとびの色が違うようにする」
C児「あみあみにする」

「色が違うようにするには？」

H児「新聞紙」 C児「お部屋にあるひもは？」 A児「白色のなわとびに色を付ける？」



なわとび以外で考えてもらいたいという思いが保育者にはあるが、なわとびにこだわるA児。A児は日頃から自分の思いや考えをもっているが、友達の意見を聞き入れながら折り合いをつけることが苦手なところがあるので、友達から様々なアイデアが出て自分の考えにこだわり続けた。そこで、保育者は視点を変えて、園児用のなわとびは数に限りがあるため、他クラスの子どものなわとびを使えなくなるについて考えることにした。

なわを使えなくなる他クラスの子どもの気持ちに気付けてほしい。

「なわとびをゆり組さんが使いたって言うたらどうする？」

友達の考えに触れて新しい考えを生み出す楽しさを知ってほしい。

C児「ごめんねこれは使えないのって言う」 B児「かわいそう」

A児は友達の発言を聞き「ハッ」となり、なわとび以外のアイデアを出し始めた。

A児が友達の意見を聞いて、思いを切り替えることができた！

A児「30個の色にしたら？テープとか？」 B児「トイレトペーパーの芯」 C児「牛乳パック」
A児「新聞紙を丸めてスズランテープをまく」 D児「去年の運動会でベルトで使ったやつは？」

自分のイメージに沿ったものを作ってリレーへの意欲をより高めてほしい。

「材料集めておくれ」

<翌日>

自分達がとりやすいしっぽになるようにイメージをふくらませてほしい。

「どんな形のしっぽにする？」「長さから決めよう」と問いかける。「なわとびくらいがいい」「ひもみたいに長いのがいい」という意見を聞きながら、イメージを共有できるように絵で示しながら話し合いを進める。

長めのしっぽの絵を描いてイメージをもたせる。

C児「そんなんぶんじゃう！違うこのくらい！」と手で広げて表す。

「今使っているなわとびの長さ？」

「そう！」と全員が賛同する。

「長さは決まったけど、形はどうするの？」

長短の違いに気付き、適切な長さを考えてほしい。

A児「ねずみのしっぽって細いんちゃう？」 B児「細かったらぎれるやん」 C児「こけちゃう」
D児「じゃあ太くしよう」 E児「まん丸やったらボールみたいでつかまれへん」

「じゃあ、みんなの手でつかめるくらいの太さにする？」と保育者が絵を描いて見せる。「それがいい」と全員が賛成したのでそれぞれがしっぽを作った。「しっぽ」を「なわとび」から「自分の作ったしっぽ」に変えたことで混乱することがなくなり楽しく何度もリレーをする姿が見られるようになった。

しっぽとったよ！

よし！走るぞ！！

どう？僕のしっぽ！

次は僕の番だ！

<環境構成>

新聞紙・カラーポリ袋・スズランテープ・不織布・ペーパー芯など



(まとめ)

・主体的に活動することの楽しさを味わいながら出来上がった「しっぽ」は、一人一人が工夫し、表現した、個性豊かな作品となったことから、子どもが自ら考え、伝えようとする力をつけることの大切さを感じた。また、「しっぽ」に変えたことで進んでリレーを楽しむ姿から、子どもが主体的に遊びたい環境づくりや様々な援助の工夫の必要性を改めて感じた。

・「保育わくワークシート」を使って話し合うことで自分とは違った視点からの意見をもらったり、アイデアを知ったりできたので、今後もよりシートを活用しながら次の保育に生かせる話し合いをしていきたい。

(成果)

・活動の中で、子どもにいろいろな問いかけをしていくことで進んで自分の意見を言おうとする子どもが増えてきた。また、友達の意見を聞いて納得したり、自分の考えを伝えたりしようとする子どもも出てきて、みんなで取り組もうとする姿勢が見られるようになってきた。

・コロナ禍の状況の中、より安全にリレーをするための方法として「なわとび」から各自が工夫を凝らした「しっぽ」に変えたことで間違っ子どもや混乱する子どもがなくなり、進んでリレーを楽しむことにつながった。

・「保育わくワークシート」を活用することで保育の内容が可視化され、保育者自身の課題発見につながった。また、他の保育者にも保育内容を理解してもらいやすく、スムーズに話し合うことができた。

(課題)

・子どもが自分の考えを出せるようになるために、安心して思いや考えを出せる環境づくりと様々な経験の積み重ねを大切にしていきたい。

・クラス全体での話し合いでは意見を出せていない子どももいるので、チームごとの話し合いを取り入れていきたい。

・材料の準備をするにあたっては、どのような材料が欲しいかを一緒に考えたり、家庭から持って来てもらったりするなど、子どもがより主体的に取り組むようにしていきたい。